

www.ibokin.co.jp

IBOKIN

IBOKIN
株式会社イボキン

ANNUAL REPORT 2021

未来は、解体から始まる。

PHILOSOPHY

社会の平和と発展を願いお客様の喜びと社員の物心両面の幸福を追求する。
そして明るく積極的に活動し堅実な経営を行う。

- 01 常に明るく感謝の気持ちを持って誠実に徹する。
- 02 仕事を通じ人間性を高め、すべての行動に品格を伴う。
- 03 きょうより今日、今日より明日へと常に改善し創意工夫を重ねる。
- 04 思いやりのある気さくなサービスで、すべての人をお客様として大切にもてなす。
- 05 技術力、ノウハウ、安全性を高め日本を代表する総合リサイクル企業を目指す。

ACTION

- ◎自覚・責任 ◎説明責任・透明性 ◎法令等の遵守と公正・公平・誠実
- ◎環境・安全 ◎公正な事業慣行 ◎顧客満足
- ◎ステークホルダーの尊重 ◎人権の尊重 ◎雇用・労働
- ◎情報管理 ◎コミュニティ貢献 ◎規範の共有

MISSION

持続可能な社会の創造

つくる責任つかう責任

環境問題

気候変動問題

資源リサイクル

BUSINESS

解体事業

環境事業

金属事業

運輸部門

CONTENTS

沿革	003
社長メッセージ	005
特別対談「多様性」を、企業価値に。	007
ビジネスモデル	009
事業・社員紹介	013
ESG	019
財務報告	023
イボキンファクト	025
会社情報	026

時代の変化とともに、イボキンは進化し続ける。

イボキンは、1973年からいくつものターニングポイントを迎え、その度に進むべき未来に向けた道を選びここまで進んできました。ここでは、イボキンが今までに迎えた転換点をご紹介します。

昭和48年
**個人事業主から高橋商店へ。
そして、株式会社として
新しいスタートを切る。**

兵庫県相生市で金属スクラップの個人事業を生業としてきましたが、高橋勇史が1973年に高橋商店を創業しました。当時は鉄をはじめとする金属スクラップ事業に注力しました。その後、規模拡大のため、1984年に揖保川金属株式会社を設立して法人化しました。

昭和55年～平成6年
**スクラップディーラーとしての
基盤確立。同時に、
廃棄物処理業への許認可準備。**

1980年代後半、バブル経済とともにスクラップの流通も増加する中、スクラップ加工問屋としての基盤を確立しました。不法投棄等が社会問題化するなか、当社は産業廃棄物収集運搬業及び中間処理業許可を取得しました。さらに1994年10月には産業廃棄物最終処分場を設置して最終処分業許可を取得し、一連の業務を一貫して扱える体制を築きました。

平成2年～平成12年
リサイクル事業へのシフト。

バブル崩壊後不況が長期化し、鉄スクラップ価格は大きく下落、業界全体として鉄スクラップ処理だけでは採算が合わなくなりました。一方、1998年に特定家庭用機器再商品化法（家電リサイクル法）が制定されリサイクルの機運が世の中に高まる中、当社は鉄スクラップ依存から脱し、いち早くリサイクルに対応できる体制へのシフトを進めました。

平成14年～15年
**環境事業、解体事業が
本格スタート。総合リサイクル
企業、イボキンへ。**

2002年10月龍野工場を開設、スクラップ業務を移し、産業廃棄物処理を本社工場に集約しました。環境事業の本格的な始まりです。解体工事もスタートし、総合リサイクル企業へと歩み始めました。業容の変化を受け、お客様や地元の皆様から「イボキンさん」の愛称で呼ばれていたこともあり、2003年10月に商号を現在のイボキンへ変更しました。

平成25年
**小型家電リサイクルへの対応。
処理できる廃棄物の大幅な拡大。**

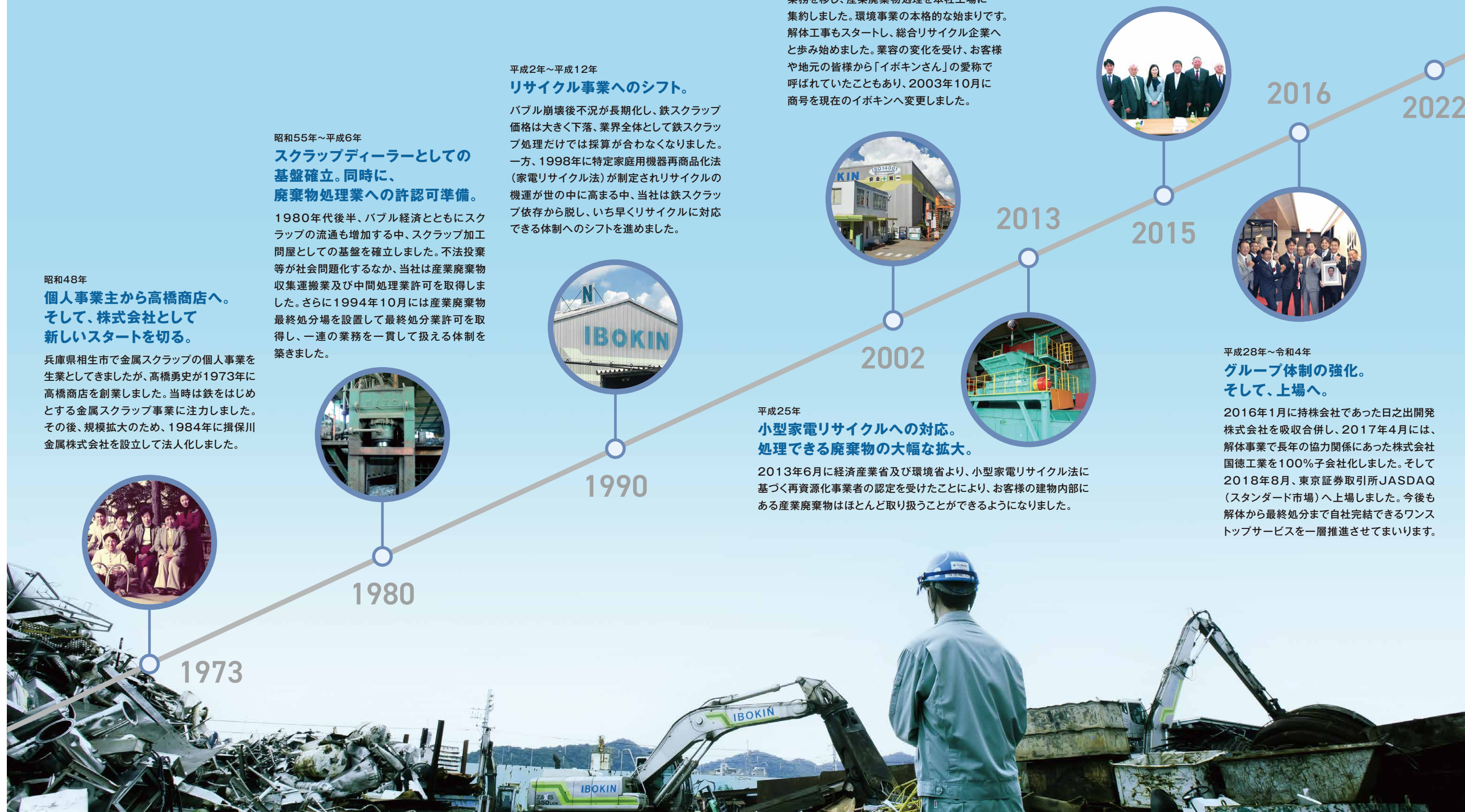
2013年6月に経済産業省及び環境省より、小型家電リサイクル法に基づく再資源化事業者の認定を受けたことにより、お客様の建物内部にある産業廃棄物はほとんど取り扱うことができるようになりました。

平成27年
**7社包括業務提携による、
地域に縛られない解体工事への挑戦。**

当社の解体工事は運搬上の限度から地元案件が中心でした。そこで2015年6月、スストホールディングス（現 TREホールディングス）、エンビプロホールディングス等の各地域の有力リサイクル企業6社と7社包括業務提携を締結しました。提携先と協力して受注し、当社が解体案件の施工を担い、排出されたスクラップや廃棄物は提携先で処理をする協業が可能となりました。こうして地域の制限を受けず解体工事を受注できるようになりました。

平成28年～令和4年
**グループ体制の強化。
そして、上場へ。**

2016年1月に持株会社であった日之出開発株式会社を吸収合併し、2017年4月には、解体事業で長年の協力関係にあった株式会社国徳工業を100%子会社化しました。そして2018年8月、東京証券取引所JASDAQ（スタンダード市場）へ上場しました。今後も解体から最終処分まで自社完結できるワンストップサービスを一層推進させてまいります。





イボキンが動く。 未来が動く。

イボキンの仕事は、日本の成長の産業に目を向け、
リサイクルを通して日本の未来を描くことが仕事だと考えます。
1970年代から90年代にかけて「Japan as No.1」と急成長した
日本のスガタ・カタチは、いま過渡期から代替わりの時期にきています。
ビル、工場、橋梁、機械設備、自動車、家電、携帯端末等々…
日本の目を見張る”都市鉱山”の成長は賞味期限を過ぎ、
次世代の再生素材として活躍する時を迎えています。
イボキンは限られた素材を、次世代に「生きたバトン」として
再生提供することで周辺産業と協調・協働しながら、
新しい循環型社会のキーカンパニーとなることを目指しています。

代表取締役社長

高橋克実

高橋 岡崎社長とは、実は大学が一緒で同級生です。しかも、事業を親から継承したという同じ立場で、今では経営者としてお互い刺激し合いながらがんばっている仲間という感じです。今日は、お忙しいところありがとうございます。よろしくお願いします。

岡崎 僕は、やはり親から継いで経営しているということで、いろいろわかりあえる部分が多いと思います。私は、もともと事業を引き継ぐつもりはなく、今の会社の子供服とは関係のないグラフィックデザイナーの仕事をアメリカでしていました。ところが、一時的に帰国して会社のデザインを手伝っていた時に、先代の父親が体を壊しまして引き継ぐことになりました。

高橋 私もう、父親の体調がよくないということで、働いていた会社を辞めて戻ってきて継ぐことになりました。

岡崎 私の場合、急な交代で経営の右も左もわからない上に、実は、当時は経営状況も良くなって、非常に悩みましたね。それが、2006～7年の頃です。そのころ世間で



定着し始めていたファストファッションを手掛けて売上を上げる手もありました。ただ、「自分の子どもに着せるつもりでお洋服をつくりましょう」という思いからはじまって、ずっと上質なものを届けてきて、それこそ、親子二代、三代で

高橋 着ていただいている服なので、そこは変えてはいけなかったと思います。それは正しい選択だったと思います。いわゆるブランド力が、一挙になくなってしまふ「安売りの服だね」ってなってしまうからです。逆に社長になって変えられたこともあるんですか。

岡崎 子供服だけやって、そこに頼りすぎしてしまうのは良くないと考えましたね。そのためには、子供服をどうつくってどう売るかだけでなく、もうひとつ上の概念が必要だと思い、会社の理念を作ったんですよ。「ライフスタイルを届ける会社になりたい」ということで、「子供の可能性をクリエイトする」という理念を社員みんなで作りました。その理念のもとで、プリスクールやクリニック、それにレストランといった、企業理念に通じる視野で取り組むようになり事業も広がりました。将来的には、教材なども作れるなと考えています。

高橋 理念のもとで、関連する事業をはじめていったということですね。やはり先代がこうしていたからこうというのではなく、変えないことと変えていけないといけないことを見極めて行動することが大事ですね。そういう意味でいうと、イボキンも、いわゆる「スクラップ屋」というところから、時代の流れもあって、しっかりとリサイクルに対応することで「環境事業」へと成長させていきました。その時、資材を回収するだけではなく、その大元の解体からはじめるようになりました。そうしたことから、ずっと自社のことを「都市鉱山開発企業」と謳っています。もう、自然界から天然資源を採取してくれればいいという時代ではない。都市にあふれる建物や製品の中に眠るモノから資源を取り出す方が、安全で、低コストで良質なものであることはまちがいないんです。それこそ、



株式会社 ファミリア 代表取締役社長

岡崎 忠彦

もう一切、自然界から資源をとってこないで「サーキュラーエコノミー」といわれる資源循環型社会が理想だと考えています。イボキンは、そこで重要な役割になっていく存在になれると考えています。

岡崎 まったく、その通りですね。今、経営にとって欠かせないSDGsにも関係してきますが、ファミリアでも、ファミリアが考えるSDGsとして「未来のためにつなげたい12のこと」を掲げて取り組んでいます。たとえば、「リソースを大切にする」という視点で、デニムバッグの持ち手のお直しのような「repair」やセーターの素材でクッションをつくる「upcycle」といったテーマで展示会を行ったり、製造工程で出る「はざれ」をストックして子供たちのグッズづくりのワークショップなどに活用したりもしています。

高橋 「リソースを大切にする」という視点だけでも、まさに多様な展開をしていますね。イボキンで言いますと、もともと環境問題につながる事業なので、解体をスタートとして、そこででた金属を無駄にしないということももちろんあるのですが、そのリサイクル工程でもいかに使うエネルギーを減らすか、環境への負担を少なくするかということが求められています。たとえば、鉄を溶かす工程でも「電炉方式」という方法を採用することで、これまでより85%も消費電力を抑え、CO₂の排出量も9割以上削減できるようになりました。さらに、その金属をいかに省燃費で運ぶか運輸の部分も大きくかわってきます。解体、金属、リサイクル、そして運輸を持っているイボキンだからできる、多様な視点で取り組んでいくことが大事になってきています。

岡崎 そういったいろんなこと、SDGsでいうところの「多様性」をすすめるには、やはり、それを実行していく人が大事だと思います。多様な方が活躍できる会社でないといけないということです。ファミリアでいうと、社員採用するときは「十人十色」というコンセプトでありまして「全員違う人を探りたい」と考えています。昨年採用した方とは必ず違う知識やスキルを持っていて性格も違う、そういった人材が集まることでお互い刺激しながら、それこそ多様な視点で組織が活性化すると考えています。

高橋 確かに、採用の時点から組織の方向性を見て共感できる人が本当に人材となってくれますね。私たちの業界は、力仕事も多いこともあり現時点では男性のほうが多い職場となっています。けれども、そんな中でも女性らしい発想から生まれる仕事の進め方もあると思います。御社のように多様な人材を取りこんでいくことで、これまでのリサイクル業界の仕組みを変え、価値を上げていきたいと思います。

岡崎 リサイクル業界をどう変えていってくれるか楽しみです。

高橋 ありがとうございます。多様な商品やサービスを提供するための多様な人材が支えてくれる会社が、多様な価値を生み出していくと思います。地元も同じなので、地域の活性化のためにもお互い頑張っていきたいですね。本日はありがとうございました。



株式会社 イボキン 代表取締役社長

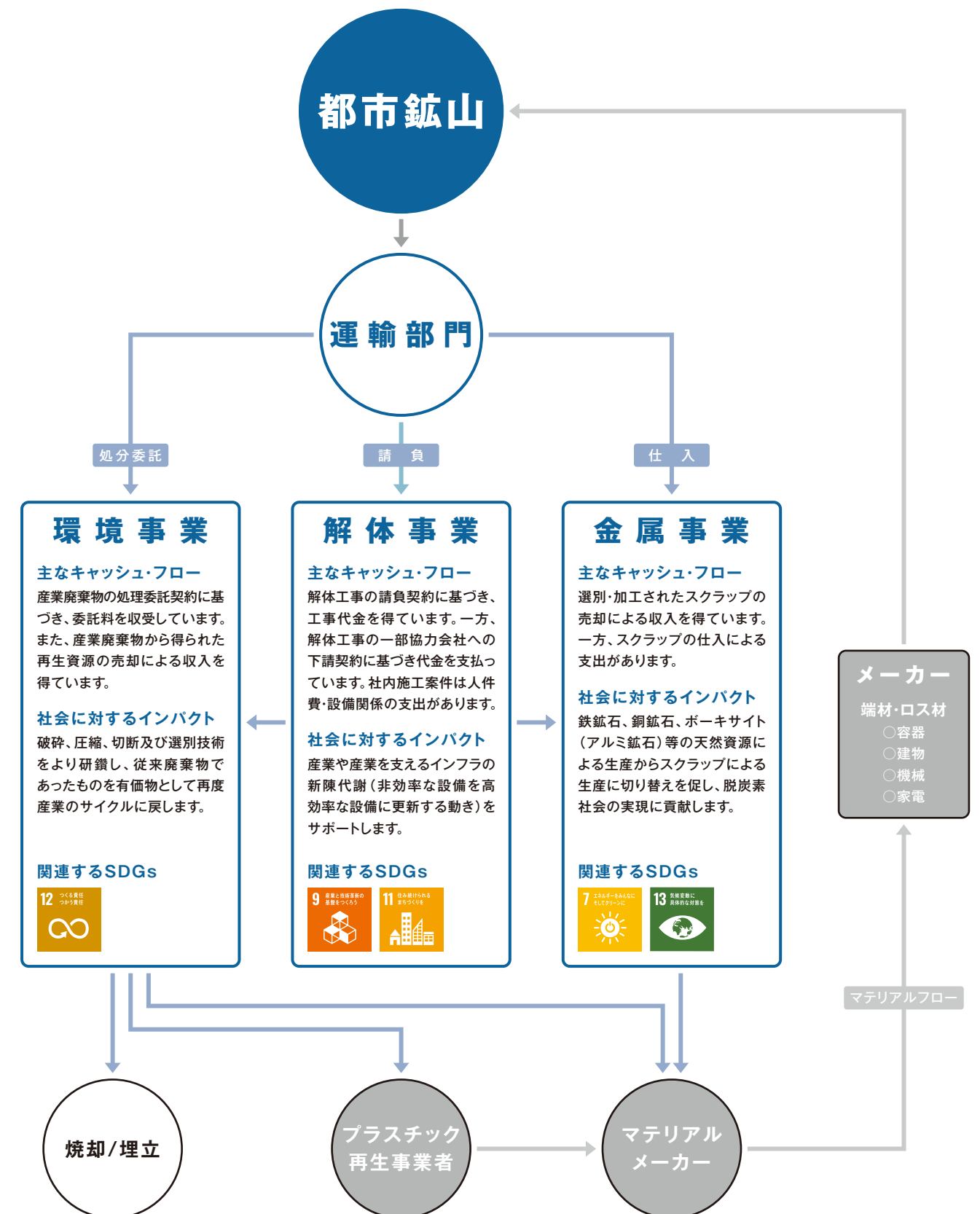
高橋 克実

都市は 未来鉱脈で 溢れている。

今後は解体工事のニーズが高まると予想されるため、解体事業を成長エンジンと位置付けています。

また、環境事業、金属事業とのコラボレーションにより、お客様のお困り事に総合的にソリューションを提供する機能に磨きをかけてまいります。

そのためには優秀な人材の確保と育成が課題となりますが、一層働き方改革を推進させ、従業員のポテンシャルをより引き出す環境を整備してまいります。



01 解体事業

建築構造物を解体・撤去し、再生資源として蘇らせる。

建築構造物を解体・撤去し、発生する瓦礫などの産業廃棄物を自社中間処理工場で建築資材などの再生資源に、鉄や非鉄などの金属類は別途自社金属加工工場で選別・加工を行い、金属再生資源としてリサイクルし循環させ当社環境事業と金属事業とのシナジーを活かしたサービスを提供しています。バックアップとしての環境保全機能を持つことで、広範な安心・安全という付加価値を提供しています。解体事業は成長戦略のエンジンであり、市場規模拡大に応じて陣容を拡大させていきます。

2021年度の経営成績

解体工事の需要は堅調に推移し、大型案件14件を含め完工件数は217件となりました。新型コロナウイルス蔓延の影響を受け新規受注が一時減少しましたが、当連結会計年度は持ち直しの傾向となりつつあります。結果、売上高は1,891,091千円（前期比36.7%増）、営業利益は325,921千円（同29.0%増）となりました。受注残高につきましても771,247千円と順調に推移しております。

今後の事業展開

高度経済成長期の波に乗り、1960年から40年間にわたり建設されたビルや倉庫、工場などが順次更新の時期を迎えています。また環境配慮型社会への移行のトレンドを受け、解体工事のニーズは今後さらに高まると見えています。当社グループは、施工管理に必要な有資格者の確保・育成を進めてまいります。施主様からの直接受注も増やし、元請工事の比率を高めてまいります。



02 環境事業

産業廃棄物を選別・加工を施し再生資源として販売する。

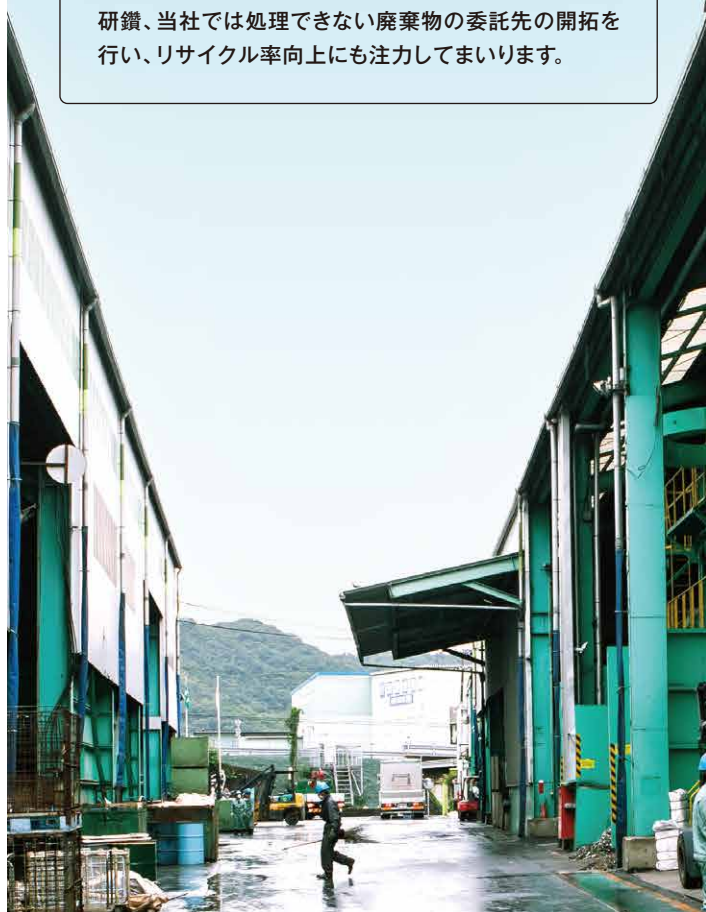
産業廃棄物収集運搬及び中間処理並びに再生資源販売を中心に事業を展開しています。製造業、建設業の顧客から廃棄物や使用済みの機械類を運輸部門が収集し、処理受託手数料を得ています。そして選別・加工後、再生資源として販売します。近年、小型電子機器などの金属系産業廃棄物が増える中、2019年、本社工場の大型破砕機を最新鋭の設備に更新、翌年には選別設備を更新しました。排出事業者様のニーズにお応えするとともに、環境保全への社会的責任を果たしていきます。

2021年度の経営成績

産業廃棄物処理受託の取扱量は24,308トンと前連結会計年度から増加し、再生資源販売の取扱量は14,561トンと堅調に推移しました。当連結会計年度においては資源価格が高水準で推移したことで再生資源販売が伸長し、利益率の向上に寄与しました。結果、売上高は1,794,939千円（前期比25.9%増）、営業利益は217,858千円（同360.3%増）となりました。

今後の事業展開

ウィズコロナ、ポストコロナの流れを反映し、産業構造が徐々に変化してゆくものと思われます。排出企業の入れ替わり、廃棄物の変化も想定されるため、その変化をいち早く予測・対応することで新規取引先の獲得に努めてまいります。また最新設備の導入を含む選別技術の研鑽、当社では処理できない廃棄物の委託先の開拓を行い、リサイクル率向上にも注力してまいります。



03 金属事業

金属スクラップを選別・加工し付加価値を高めて出荷する。

設立以来48年の事業で、安定経営の基礎となっています。産業活動から発生する金属スクラップを仕入れ、自社工場にて選別加工、付加価値を高めて電炉など鉄鋼メーカーに出荷することで100%リサイクルを達成しています。当社はスクラップ発生元とのネットワーク、スクラップの目利き能力、重機・大型設備・ガス等による切断技術に強みがあります。スクラップの相場変動による影響を受けますが、仕入～販売の加工工数を短縮し、変動の影響を最小限に抑える事業運営を推進しています。

2021年度の経営成績

スクラップの取扱量は60,765トンと堅調に推移しました。前連結会計年度においては、鉄スクラップ等の資源価格が一時急落したことで売買差益が減少しましたが、当連結会計年度においては、資源価格が高水準で推移し、また一時急騰したことで売買差益が増加しました。結果、売上高は4,747,141千円（前期比79.6%増）、営業利益は243,082千円（同786.4%増）となりました。

今後の事業展開

カーボンニュートラルへの動きが加速する中、鋼材を金属スクラップから生産する電炉方式が、鉄鉱石から生産する高炉方式に比べCO₂排出量が少なく注目を集めております。当社グループは金属スクラップの供給において重要なポジションを確保するため、新規開拓を含めた商流の強化を図り、複合物への対応により顧客満足度を向上させる取り組みを展開してまいります。



04 運輸部門

産業廃棄物やスクラップを収集・運搬する。

当社グループの運輸部門は、廃棄物、スクラップの仕入先からの回収、及び顧客への納入を担っています。社内に物流機能を有することで、当社工場が工場地域から離れた場所に立地している弱みを補い、さらに、営業能力を併せ持つドライバーを動員していることから、顧客情報の収集など、強力な営業支援機能を有しています。

安全への取り組み

トライエスプログラム

エコドライブ活動の推進で実績を上げている株式会社アスア様のコンサルティングサービス「トライエスプログラム」を導入しています。永遠のテーマである「交通事故撲滅」のため、教育計画実施～活動状況の分析～改善活動を行っています。毎月ドライバーが記入する走行管理表をもとに、燃費に対する意識の向上も目指しています。エコドライブは環境を守ると同時に事故防止にも繋がります。積極的に意見交換し、部員全員で意識を高めます。

運行前ミーティング/日常点検

毎日運行前にミーティングを行っています。作業内容、ドライバーの身だしなみの確認をするとともに、安全について周知徹底を行います。また、安全な走行のためには日頃から車を点検整備しておく必要があります。特に故障の早期発見に繋がる日常点検は重要です。整備不良による事故やトラブルを未然に防ぐとともに、環境負荷の軽減に繋がります。





株式上場の次は、人柄上場です。



01

解体事業

緊張感と達成感。幅広い業務を効率的に、安全にやり遂げる意識を大切に。

解体工事部では、プラント解体、ビルや倉庫、工場や住宅の建築物の解体、設備撤去や移設などに幅広く対応しています。現場管理においては特に安全管理を一番大事にしています。解体工事現場は危険箇所も多く、大事故に繋がるリスクが非常に高いので、毎朝のミーティングで危険予知活動を徹底しています。長期間の現場においては特に、無事故災害で工事を完工させるために良い環境、良い雰囲気で作業を行う事が一番安全に直結すると思い、日々声かけ、職人の方々との密なコミュニケーションのもと取り組んでいます。また現場では、廃棄物やスクラップが大量に発生します。事前に種類と量を予測し、処理計画や運搬計画を立てる事も重要です。工事を進めながら廃棄物の分別、スクラップの分別作業を徹底して行い、スムーズな工程も意識しています。管理する事が多く大変ですが、イボキンの環境事業、金属事業、運輸部等全体に関われるのでやりがいも大きいです。完工して建物や設備が綺麗になくなった現場を見ると喜びもあり、工期内に事故やトラブルなく完工すると達成感もあります。また、お客様から感謝の御言葉を頂いたときは、モチベーションもあがります。安全に工事を完工させる事で、次の仕事にも繋がりますし、自分の自信にもなります。これからもイボキン全体と協力業者の方々と力を合わせ、たくさんの方から信頼を得られるよう努めていきます。

解体工事部 **森本 健斗**

02

環境事業

日々の改善の積み重ねが自分と家族、さらに世の中の未来につながる。

本社工場では、お客様が持ち込みになられた廃棄物の中身を確認して各ヤードに誘導したり、荷降ろしや選別を担当しています。お客様あつての仕事なので話し方や言葉遣いなど、気持ち良く帰っていただけるようにいつも意識しています。すると、お客様の方からも話しかけてもらえ、私自身も嬉しいです。小さな積み重ねが後に良い方向に向かって行くのだと実感しています。また、重機での選別では、廃棄物を木くず、紙くず、廃プラなどに細かく選別します。そしてラインに流しさらに細かく選別し、得られたものを有価物や燃料として出荷しています。気を付けることは、お客様をお待たせしないようにしながらも、選別出来るものはしっかり見極めて選別することです。それから重機での事故や怪我は全てを台無しにしてしまうので、常に安全作業を念頭に置き日々の業務にあたっています。昨今では世界的にSDGsという目標があります。その中の「2030年までに、廃棄物の発生防止、削減、再生利用及び再利用により、廃棄物の発生を大幅に削減する」という目標を見たときに、まさに私達の仕事こそがそのまま当てはまると思いました。同時に誇らしい気持ちにもなりました。また、私には2歳の子供がいます。廃棄物を減らし大切な資源を未来に残していくことは、子供たちの未来を守ることに繋がり、自分自身の活力になります。家族のために、世の中のために日々精進することが私の財産であり大きなやりがいだと感じています。

本社工場 本社製造課一般産廃チーム **安東 拓麻**

03

金属事業

のびのびした環境で自身の力を養い、
会社と部門の目標を目指す。

私は主にカタンシャーという機械にホイス（荷を持ち上げる巻き上げ機）を使って伸鉄を並べ、鑄造メーカーに出荷するカタンコ口に加工をしたり、重量物の玉掛作業や荷下ろし作業、製鋼メーカーへの鉄スクラップ加工品の積み込み作業をしています。最近ではクレーン（12t）での荷受け、荷下ろし、積み込みもしています。作業中特に注意していることは安全です。ホイスの磁石で伸鉄をつけて移動するため伸鉄がはじいて自分に飛んでこないようにしたり、フォークリフトやショベルローダーなどで荷下ろしをするときは荷物の重心を見極めたり、積み込み時はスクラップの破片が飛ばないように気を付けています。私は人と話すことが好きで、スクラップを持ち込んで下さるお客様や運転手さんとコミュニケーションをとることでさまざまな情報が手に入り、自分の成長にも繋がります。荷下ろしや積み込み作業が終わり「ありがとう」という言葉を頂くと嬉しいのです。また、先輩方も丁寧に指導してくれて、教えてもらったことを活かしながら自分で考えて作業できるやりやすい環境です。そのため、自分自身の考える力も養うことができ、のびのびと楽しく作業できています。必要な資格も会社が取らせてくれるので、できる仕事の幅も広がり、さまざまなことに挑戦できるようになってきました。これからも部門の目標や会社全体の目標に少しでも力になれるように頑張ります。

龍野工場 龍野製造課 谷口 有汰

04

運輸部門

イボキンの一員として、
個人ではなく全員でやり遂げる仕事の充実感。

運輸部の主な仕事は、お客様の所へ行き廃棄物やスクラップの引き取り、パッカンをコンテナの交換を行うことです。車両の日常点検をしっかりと行い、安全運転・安全作業を行っています。月に一度安全対策会議も行い、接触事故等の再現を疑似体験する事などで事故防止に繋がっています。また、車両美化にも力を入れています。車両はイボキンの看板です。マナーある運転を意識し運行、引き取り先へ行った際には、ユニック車でクレーンを使った作業やアームロール車でコンテナの脱着作業を行います。この仕事はお客様と接する機会も多く、色々な要望をいただきます。引き取りできない物（禁忌品）があった場合、しっかりと対応しないといけませんので、廃棄物の知識も日々勉強中です。以前4.5tの機械設備を引き取りに行ったときの事です。そこにはイボキンの営業と設備の撤去から搬出を行う解体工事部員が数名、狭い現場で声をかけ機械設備を屋外に搬出していました。その後レッカー車にて私のトラックへ積み込み、本社工場まで安全に運搬しました。搬入した重量物はフォークリフト2台で荷下ろしし、その後処理も行いました。私はこのイボキンのワンストップサービスの力になれた事に、大きなやりがいを感じました。1人ではなく全員でやり遂げた仕事です。お客様に感謝をいただく事や全員で仕事をする楽しさを感じながら、素直・謙虚・感謝の気持ちを忘れずにしていきたいです。

運輸部 塚本 裕文

社会課題の解決に全力で挑む イボキンESG宣言。

当社グループは、サステナビリティに対する取り組みを企業価値を向上させる重要な経営課題として認識しています。経営理念を実践するとともに、解体、環境、金属の各事業活動を通じて、循環型社会への転換に貢献する一方、リスク対応としても、事業の遂行に伴い発生する環境負荷や、社会に与える負の影響を緩和する取り組みに着手しています。また、それらの取り組みを一層推進させるため、ガバナンス体制の向上にも努めています。



持続可能な社会を目指して

グループ全体の活動を通じて 地球環境の調和に努めていきます。

イボキン環境方針

当社グループは、地球環境保全を経営における最重要課題の一つと位置付けます。ISO14001に基づき構築した環境マネジメントシステムを日々運用し、事業活動と環境の調和に努めています。循環型社会の実現に向け、中心的な活動の解体工事、廃棄物の中間処理、スクラップの加工、廃棄物の収集運搬が環境に与える影響を、定性・定量的に把握し、環境負荷低減に向けた取り組みを行っています。また、環境保全活動を推進するため、イボキン環境方針を制定しています。

二酸化炭素排出量の削減

当社グループでは、地球温暖化を世界的な課題と捉え、物理的リスクとして、異常気象に伴う豪雨・洪水による事業場の浸水を認識しています。また、温室効果ガスの排出規制が強化された際の財務リスクも認識しています。以上から、CO₂排出量の削減を重要経営課題に加え、計画を立案します。運輸部のエコドライブの取り組み(トライエスプログラム)は2017年から実績を上げていますが、今後は全部門、事業所における化石燃料由来のエネルギー利用状況を把握し、順次対策を検討してまいります。



雨水排水の処理

■油水分離槽

工場に搬入される廃棄物やスクラップには油分が付着していることがあります。油が雨水に混入して流出するリスクを想定し、雨水を油水分離層に通して排出しています。降水の際には必ず油水分離層の点検も実施します。



■水質検査

当社安定型最終処分場には、生活環境保全上の支障をきたすおそれが少ない廃棄物のみを埋め立てます。搬入は有害物質の漏出の危険性が特に低い廃棄物に限定する厳しい基準を設けています。定期的な水質検査も実施しています。



社員・社会に貢献し 選ばれる企業を目指しています。

働き方改革への対応

時間外労働削減のため、毎月各部署のチームマネージャーに各所属員の残業時間の報告及び注意喚起を実施しています。また、ワークライフバランスを保つために、毎週水曜日をノー残業デーとしています。

健康経営

以下の取り組みにより、健康経営優良法人2021（中小規模法人部門）に認定されました。

- ◎安全衛生大会での腰痛講座 ◎GLTDへの加入
- ◎ラジオ体操 ◎感染症対策 ◎過重労働対策
- ◎メンタルヘルス講座 ◎受動喫煙対策 ◎健診実施 など

採用担当として色々な視点の方と 触れ合うことで自分自身の視野も広がります。

総務人事部 柏 あかね

新卒採用では、自分より若い学生の方々と直に触れ合うことができ、刺激をもらっています。自分とは違った角度からイボキンを見てくれたり、新たな発見や気づきもあります。また中途採用においては逆に社会人として自分よりも経験豊富な方のお話を聞けるので、勉強になることも多いです。色々な視点でイボキンに入社したい! と思って応募してくださった方と触れ合うことで自分自身の視野が広がります。現在安全管理とISO 14001の2つの委員会の事務局も担当しています。どちらも会社を存続させる上で必要不可欠な仕事です。その重要な仕事に関わらせていただいているという責任感もやりがいに繋がっています。これからも会社全体とそこで働く社員の皆さんをサポートできるよう日々努力していきたいと思っています。

役割と指示系統を 明確にする仕組みづくり。

経営理念を社員全員が 深く理解共感共有し行動基準とする。

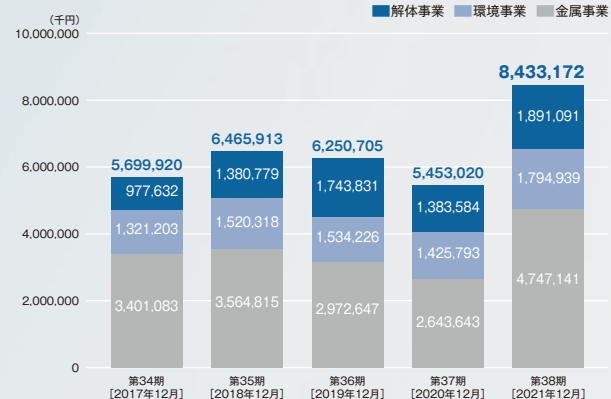
社外取締役 永津 洋之

企業は、進化発展していく資本市場社会において、様々なステークホルダー様の立場を踏まえ、透明性が高く、公正性の高い意思決定をおこない、会社の持続的な成長と中長期的な企業価値の向上を実現していかなければなりません。当該責務の観点から、社外取締役は、経営組織体はその責務を果たすべく、適正な経営判断をおこない、適正に執行しているかどうかを監督し、取締役会等において、独立的な立場から、適正な意見提言をおこない、意思決定に参画しなければなりません。その為には、社外取締役としての私は、会社の実態・現実を無視して、机上の空理空論、あるべき論、経営論を振りかざすのではなく、まずは会社のことを良く理解すること、つまり、会社のアイデンティティや特徴、長所や短所等を理解し共感することが、根本的に大切だと考えます。ですので、取締役会の出席だけではなく、毎月の業績検討会議への出席、監査役会への出席、取締役、内部監査室、及びリーダーさん達への個別ヒアリング、一般社員さん達とのコミュニケーション、大事な会社行事等への参加等をおこなっております。株式会社イボキンのアイデンティティ、経営の根幹は、会社憲法という経営理念にあり、会社には、それを元に展開作成された、社訓と企業行動指針、そして、それらを細かく言語化した経営理念手帳がございます。会社経営の根底を支えているそれらを、社員全員が理解し、共感し、共有し、各々の現場職務遂行の上での判断・行動基準にすることによって、コーポレートガバナンスの目的遂行を有機的に助力ならしめます。そのような経営の理想形の完成は、長い道のりではございますが、取締役及び取締役会は、そのような会社経営の実現を目指し、日々精進しております。株式会社イボキンは、2018年8月、株式市場に株式上場をさせて頂きましたが、今後の中長期的な企業価値の向上を実現していく為に、取締役会では、中長期での経営戦略の論議・協議に、より一層の強化を目指しております。そして、その実現の為には、次世代の経営陣・経営幹部の育成が必須であると考えております。会社は、次世代リーダーに対して、具体的な経営者教育、指導とOJTをおこない、コミュニケーション・対話の強化をおこなっておりますが、その中において、私は、公開情報、有価証券報告書等を活用した数字・戦略等の同業他社分析、異業種他社分析等の講義と対話の実施を通して、経営者としての高い視座と視点、数学力の醸成の基礎造りの援助をさせて頂いております。以上、株式会社イボキンは、ステークホルダー様の期待に応えられる有効なコーポレートガバナンスの構築・運用を日々進化させ、実現して参ります。

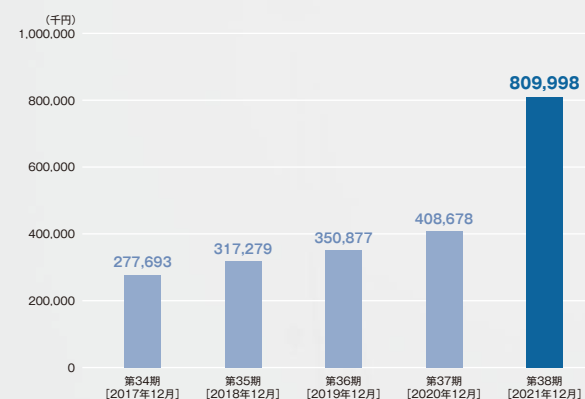


財務報告

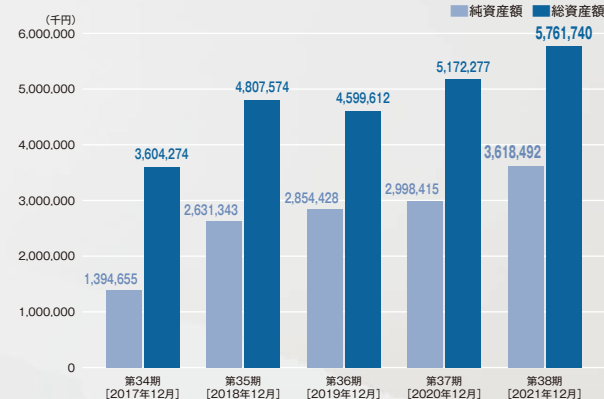
売上高



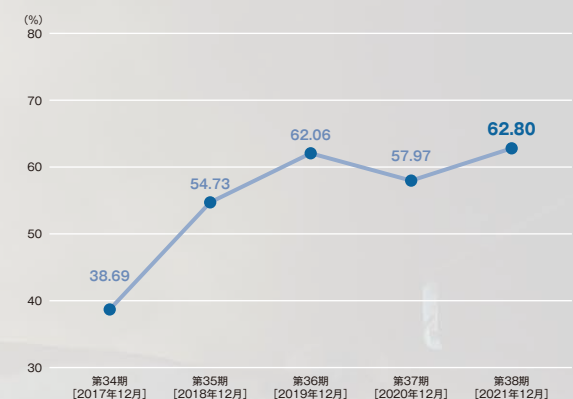
経常利益



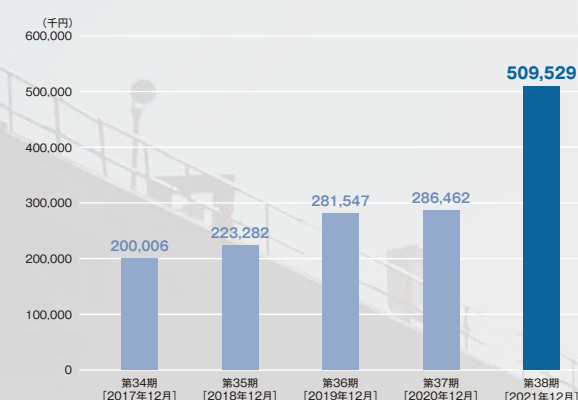
純資産・総資産額



自己資本比率



親会社株主に帰属する当期純利益



1株当たり当期純利益金額※



1株当たり純資産額※



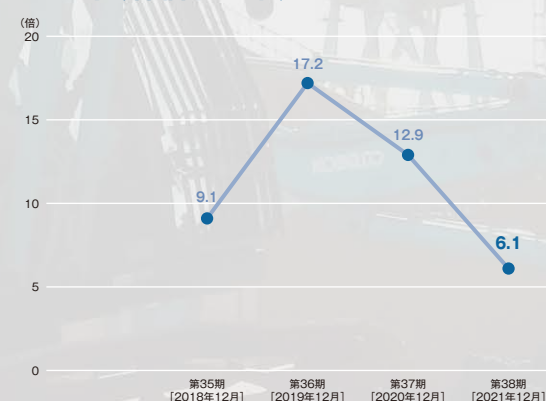
1株当たり配当額※



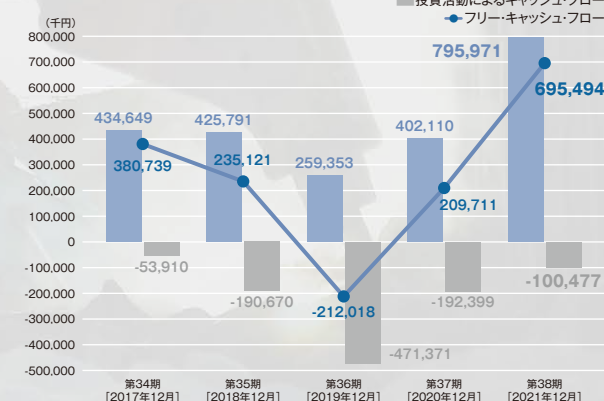
ROE (自己資本利益率)



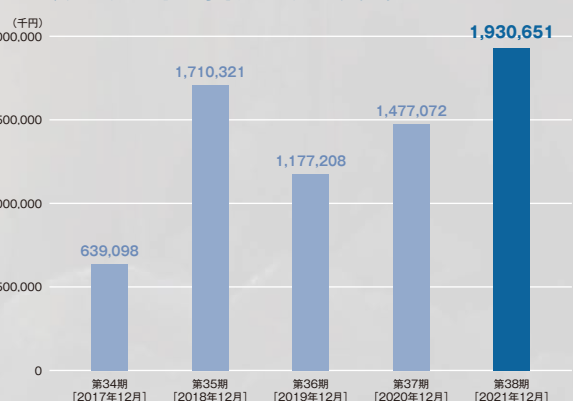
PER倍率 (株価収益率)



キャッシュ・フロー



現金及び現金同等物の期末残高



※2018年3月30日付で普通株式1株につき2株の割合で株式分割を行い、2022年1月1日付で普通株式1株につき2株の割合で株式分割を行っております。これに伴い、第34期の期首に当該株式分割が行われたと仮定して、1株当たり当期純利益および1株当たり純資産額を算定しております。1株当たり配当額については、2018年3月30日付株式分割後、2022年1月1日付株式分割前の株式数を基準として算定しております。

149人

従業員数(連結)

男性 女性
74:26

男女比率(連結)

207件

イボキンブログ更新件数

8名

1級土木施工管理技士
有資格者数

100%

育休取得率

6.97%

離職率

40.3歳

平均年齢

∞

6.1年

平均勤続年数

ありがとうの言葉の数

16府・県・
中核市

産業廃棄物処分業における
優良認定の数

100%

健診受診率

12.5%

役員に占める女性割合

1,000日

無災害目標日数

15.13時間

1ヶ月平均残業時間

毎日

フィロソフィ
(経営理念・会社憲法の唱和)

会社情報

会社概要

社名	株式会社 イボキン
本社	兵庫県たつの市揖保川町正條379番地
代表者	代表取締役 高橋 克実
設立	昭和59年
資本金	130百万円
年商	8,433百万円(令和3年12月期)(連結)
従業員	(連結)149名(単体132名)
事業所	本部ビル/本社工場/龍野工場/阪神事業所/ 東京支店/福島支店/PMR工場/最終処分場

営業品目	1. 鉄、非鉄スクラップの収集運搬、加工、リサイクル 2. 一般廃棄物の収集運搬、中間処理 3. 産業廃棄物の収集運搬、中間処理及び最終処分 4. 特別管理産業廃棄物の収集運搬 5. 自動車リサイクル 6. 建築物解体工事 7. 高度管理医療機器等の売買及び貸与
------	---

工場・事業所



本部ビル (管理本部・解体工事部)
〒671-1631
兵庫県たつの市揖保川町山津屋140-14
Tel.0791-72-5088 Fax.0791-72-7400



本社工場 (環境事業・運輸部)
〒671-1621
兵庫県たつの市揖保川町正條379
Tel.0791-72-3531 Fax.0791-72-2639



龍野工場 (金属事業・ELV部門)
〒679-4155
兵庫県たつの市揖保町揖保中198-1
TEL 0791-67-2525 Fax.0791-67-2828



阪神事業所
〒660-0095
兵庫県尼崎市大浜町1-31-1
Tel.06-6411-3300 Fax.06-6411-3307



東京支店
〒101-0047
東京都千代田区内神田2-16-11-303
Tel.03-3254-2525 Fax.03-5294-2525



福島支店
〒979-1151
福島県双葉郡富岡町大字本岡字王塚590-16
Tel.0240-22-8383



PMR工場 (RPM部門)
〒679-4155
兵庫県たつの市揖保町揖保中341
Tel.0791-67-0500 Fax.0791-67-2727



株式会社 国徳工業 (グループ企業)
〒590-0984
大阪府堺市堺区神南辺町1-54-1
Tel.072-225-1707

環境方針

当社は、資源の少ない我が国に於いて、都市鉱山開発企業として最先端の技術力、ノウハウ、安全性を追求し、持続可能な資源の有効活用を通じて社会に貢献する。当社は、日本の新しい自然環境を未来に残し、「もったいない」の心を社会に広める事を使命とする。本方針は一般に公開する。

1. 環境関連の法規制並びにその他の要求事項を徹底遵守する。
2. 解体、分離、選別技術を研鑽し、リサイクル率の向上に努め廃棄物の製品化による自己完結型のリサイクルを目指す。
3. 製造技術、流通システムを研究開発し、より良いサービスを広く提供する。
4. 定常業務はもちろん、非定常業務及び事故等の緊急時に於いても汚染予防を徹底する。
5. 本方針遂行のため、環境目標を設定し、必要に応じて見直し、環境パフォーマンスの向上のため、環境マネジメントシステムの継続的改善を推進する。
6. 当社環境方針に沿った行動を行うように、全従業員及び当社の為に働く全ての人に周知する。